

2022年度のマイカー規制/シャトルバス運行に係る事業結果について(速報)

知床国立公園カムイワッカ地区利用適正化対策協議会

1. 5月連休の取り組み(規制を伴わない乗り換え促進)

■ 概要

知床五湖駐車場における渋滞緩和を目的として、通常の路線バスに加えて知床自然センターと知床五湖間において臨時バスを増便し、約30分間(1日12往復)での運行を行うとともに、渋滞時にも優先的に入場が可能となるバスへの乗換を呼びかけた。

■ 実施期間

2022年5月1日(日)～5月5日(木)

■ 運行方法

通常6往復の路線バスに加え、臨時便6往復を運行(始発8:30)。料金は有料とし、通常の路線バスと同一の価格とした。大人960円/子ども480円

■ 実績

- 増便運行は、5日間のうち1日は知床五湖臨時閉園のため運休し、4日間実施した。
- 期間中のバス利用者数は336人(2021年度は4日間運行で156人)となった。
- 知床五湖駐車場入場待ちの渋滞が発生したのは2日間のみであり、想定 of 混雑は発生しなかった。

2. 7月連休の取り組み(規制を伴わない乗り換え促進)(新規)

■ 概要

7月の海の日前後の連休に、前項と同様の事業を実施した。

■ 期間

7月16日(土)～7月18日(月・祝「海の日」)

■ 実績

- 期間中のバス利用者数は52人であった。
- 知床五湖の駐車場は期間中1度も満車にならず、想定 of 混雑は発生しなかった。宿泊施設の予約も低調であり、全体として入込みが少なかった。

3. 8月のマイカー規制とシャトルバスの運行

■ 概要

1999年より、夏季のカムイワッカ地区における混雑対策として、知床五湖以奥のマイカー規制と、シャトルバスの運行を実施している。また、知床五湖における駐車場入場待ち渋滞の対策として、知床五湖利用者に対しても渋滞情報の提供とシャトルバスへの乗換の呼びかけを実施している。本年度はお盆期間を中心とした10日間で実施した。

■ 実施期間

8月7日(土)～8月16日(月)(計10日間)

例年、25日間程度としているが、新型コロナの影響により2020年より10日間に短縮

■ 運行方法

知床自然センター～知床五湖～カムイワッカ湯の滝間を20分間隔で運行

一部はウトロ温泉ターミナル、および斜里バスターミナルとの直通運行を実施(自然センター始発8:40)。料金は自然センター～カムイワッカ湯の滝往復1,300円。料金は自然センター～カムイワッカ湯の滝往復1,300円。

■ 結果

- 期間中のバス乗車人数は3,548人(2021年度は5,500人)
- シャトルバスの乗車人数としては、過去最低の水準であり、知床五湖などでも想定の混雑は発生しなかった。

4. 10月オータムバスデイズの取り組み(ナショナルパークシャトルの運行)

■ 概要

ヒグマ等の深刻化する野生動物とのあつれき対策、新たな観光コンテンツの創出、地域の二次交通網の検討などを目的として、ホロベツ地区(知床自然センター)からの車両規制とシャトルバス(ナショナルパークシャトル)を運行。「知床オータムバスデイズ」として秋のイベントと一体的に実施し、カムイワッカの滝上流部の再利用事業も同時期に実施した。

今年度は、試行事業の2年目として、バスの有償化に取り組んだ。

■ 実施期間

9月30日(金)～10月2日(日)

■ 運行方法

ウトロおよび知床自然センターを乗り換え拠点として、公園内の主要な目的地を3系統のシャトルバスで分担輸送した。また、一部便には地元ネイチャーガイドが同乗し、知床の自然環境や利用のルール等に関する解説案内を実施した。

■ 料金

3Dayパス2000円、1Dayパス(カムイワッカ往復)1300円、五湖往復700円

※小学生以下無料

■ 結果

- 利用実績は3日間で発券枚数1,159枚、バスの延べ乗車人数は1,780人となった。
- 3日間天気は安定していたが、利用者は昨年比72%の水準に留まった。
- 事業効果や利用者意識の分析取りまとめを行い、今後のあり方についての検討を進める予定。

